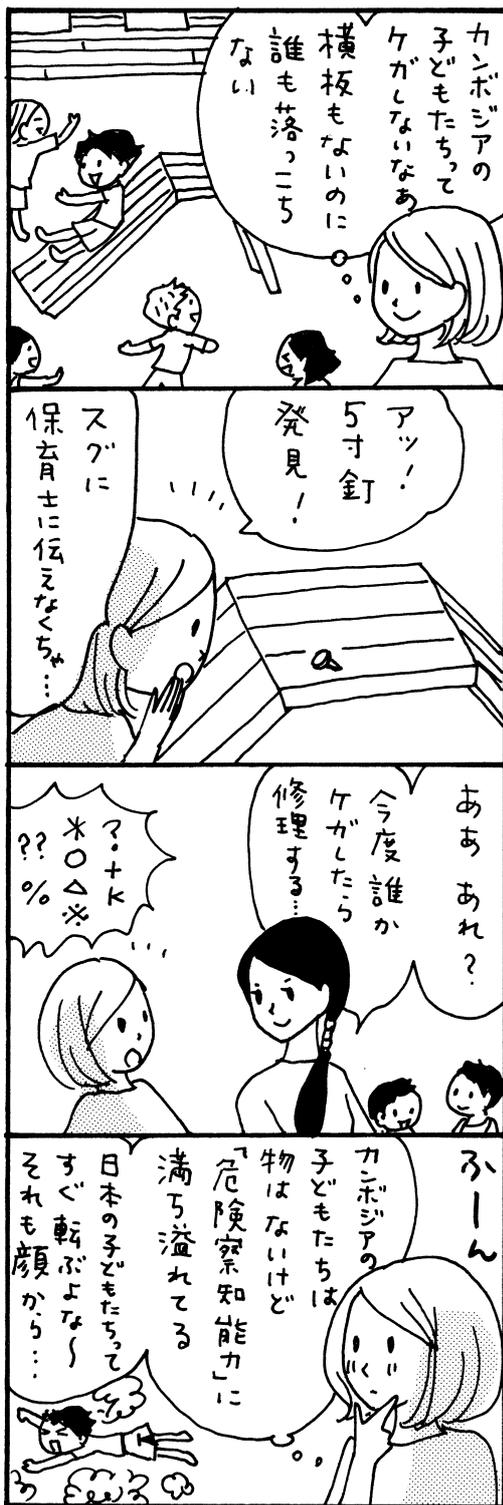


保育園での異文化体験エピソード



その35 ケガをしない子どもたち



内 戦が終わったカンボジアのある農村に保育研修に行ったときのことで。

保育教材も、玩具もない村でしたが、そこで見た「ケガをしない子どもたち」が印象的でした。そこは、地雷を含むたくさんの「危険なもの」が散在しているにもかかわらず、子どもたちの走る姿がしなやかで美しく、動きに無駄がなかったのです。

日本は便利になり、私たちはその恩恵を多大に受けていますが、その代償に失ってしまったものもあります。すべて機械がやってくれる代わりに、眼を使って「よく見ること」や、手や身体を使って工夫する機会が減少し、その結果、私たちの五感も身体もなんだか鈍くなり、敏捷さが消えつつあるように感じます。

「ちょっと不便で楽しい生活」を取り戻し、電気より手を使いましょう！

そして、手を武器の操作ではなく、平和のために使えるよう、大人が見本になりたいです。

(深津高子／認定 NPO 法人幼い難民を考える会理事・国際モンテッソーリ教師)

「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること（平和）を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか？！

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

E-mail : ans@zenshihoren.or.jp